

## 財団の歩み

顧問 織田重稔

近年、我が国の技術革新の進展にともない、従来の金属では考えられなかった高性能金属等の材料が出現しつつあり、これら材料を有効に活用するためには、塑性加工による高精度加工機械や加工システム技術に関する研究が積極的に行われることが必須であります。これからの塑性加工に課せられている重要な課題は、真に独創的、革新的な新技術を創出してゆくことにあると思えます。

このような背景から、(株)アマダの天田勇会長がかねてから構想を練ってきた「金属等の塑性加工に関する技術・機械の発展に寄与する事業」の実現のため、昭和61年12月通商産業省において財団設立に関して趣旨説明を行いました。翌年始めには財団設立準備委員会を設置して、計画具体化のための詳細審議を終り、ここに天田勇会長の私財寄付と、これに(株)アマダをはじめグループ3社の出捐によって、昭和62年5月通商産業省の許可をえて、財団法人天田金属加工機械技術振興財団が設立されました。

事業内容は、大別して「研究助成」と「国際交流助成」の二つの助成事業を主たる目的として、いづれも金属等の塑性加工に必要な技術の研究開発領域に限り、これに携わる大学、高専、学協会およびこれに準ずる研究機関に所属する研究者個人または団体を対象として助成活動を行ってきました。

昭和62年度を第1回として、平成2年度第4回までの助成を終り、既に平成3年度第5回も応募あった申請について、選考委員会の審議採択も終り、理事会の決定を待つばかりになっております。

平成3年度の助成事業が終れば、現在までの助成件数も180件余、助成金交付総額も3億7千万円を超えるものと思われます。

設立以来5年を経過した現在、当財団の設立趣旨が徐々に全国関連機関の認識と理解を深めた結果、助成実績も北海道から九州まで全国的な広がりを示し、財団の目的にふさわしい事業の実施ができました。

また以上の事業に係る成果の普及啓発も大切な事業の一つになっており、助成金交付者から提出された研究成果報告書をもとに、平成元年3月第1回として「研究概要報告書・国際交流報告書」を編集発行、引続き毎年刊行して国内の関連機関に配布、塑性加工技術の普及啓発に役立ててまいりました。

またこれら研究成果として報告されたものには優れたものが多く、これを報告書のみで終了させることなく、広く産業界にも普及啓発する必要があると考え、本年秋には「研究成果発表会」を開催いたします。塑性加工関連技術に係わる関係者の技術の向上を図り、多少なりとも業界の発展に寄与できればと考えております。

お陰をもって当財団事業も順調に進展いたしており、これもひとえに主務官庁のご指導をはじめ、関係各位のご協力の賜と深く感謝いたしております。

今後とも財団設立趣旨に則り、さらに充実した助成事業を通じて、我が国塑性加工技術の健全な発展のために、尚一層の努力をしてみたいと思います。